

## 自分が大切だと思うものを持ち続けてほしい

総合科学部長 天野 實

1990年度卒業生諸君、御卒業おめでとう。20世紀も残り10年になりました。諸君のこの4年間の大学生生活の中で最も大きな出来事は何かであったか考えてみよう。諸君が個人的にいろいろと起こった重大な出来事は別にして、何といっても世界的な特筆すべき出来事がいくつかあったと思う。東西ドイツの統合、ソビエト共和国のペレストロイカ。ついには昨年8月のイラクによるクウェート侵攻、戦争のほっ発である。どれ一つ取り上げてみても数年前には考えられなかったことではないだろうか。我々の住んでいる地球上でのいろいろな出来事がめまぐるしく変化する速度は予測し難いほどの早さである。生命科学の分野においても生体肝移植、脳死の問題を考えてみても世の中はどんどん動いて行くのがよくわかる。

卒業生諸君、このようなはげしく変化する社会に出て、一個の社会人として生活していく上でぜひ心がけてもらいたいことがある。どんなことでもよい、しばらくの期間でもよい。長ければ長いほどよい。自分の信じる一つのことにとこだわって生活してもらいたいと思うのだ。

世の中はどんどん動き、いろいろな情報は好むと好まざるとにかかわらずどしどし我々の五感に入ってくる。受身の姿勢で生きていたらあっというまに流されてしまうであろう。自分の立っている場をしっかりと見据えて物事を分析判断し、行動してもらいたいものだ。自分が大切だと思うもの、それをしっかりと持ち続けてもらいたい。

広島大学総合科学部へ入学した年に理科系は2つのコースが4つのコースに改められた。外国語コースが新しくできた。現在は文科系のコースをもう一つ作ろうと努力している。総合科学部創設の理念は現在も不動のものである。一般教育の見直しなど聞かれる現在、私達の学部創設の理念はまさに世の中を先取りしたものである。この15年間の経験を振り返りより良き学部としての教育研究の体制作りのために改められたものである。総合科学部生として受けた教育の良い所を今後の社会生活に十分生かしてもらいたい。核となる専門分野を持ちながら、それを越えた裾野の広い教育研究を身につけたはずである。中には非常に個性的、変人とも表現できるような教官のひたむきな研究または教育についての生活態度を4年間みることによって、諸君は何か身についたものがあつたはずだ。それは何だろうか。誠実に元気いっぱい生活しようということではないだろうか。どうか元気で世界にはばたいてもらいたい。世界にはばたけ総科の卒業生諸君。

人間が人間を殺すことは絶対にしてはならない。何かの縁で広島の大學生生活を送った諸君。長い人生の中で平和の尊さを毎日毎日じっくりとかみしめて生活してもらいたい。

最後に、無事広島大学総合科学部を卒業できたのは諸君自身の努力もさることながら、御両親はじめ多くの方々のお力添えがあつたことに対して深く感謝する気持ちも忘れないでもらいたい。諸君の健闘を祈る。